

1. 活動報告（事務局 記）

—6月26日（日）福川子どもクラブ一行がビオトープ探険をされました。午前中はビオトープでトンボを中心に生き物調査をし、午後は市民センターで、匂いで識別する9種類の木の葉のクイズと今日の全体の総括を行ないました。参加者は、子供35名、大人7名、大学生9名で、つくる会からは管・北村・前田・西原会員が対応しました。

—7月02日（土）エコアップは、蓮田のガマ草・大フサモの除去、湿地帯のスゲ草まびきを行いました。維持活動は、須賀河内川土手・ビオトープ散策道全般の草刈を行いました。参加者は会員13名、小学生3名応援 計16名でした。その他、東屋の雨漏れコーキング補修・水車の軸受グリスアップの実施をしました。

午後からはUNCCA（宇部市地球温暖化対策ネットワーク）総会があり、今井、管、田村、関根、原田会員（5名）が参加されました。

—7月16日（土） 第4回親子自然観察会「田んぼの生き物」

子ども15名 保護者会員6名 スタッフ5名で観察を行ない、子供達に田んぼに入ってもらって除草機で田んぼの雑草を取ってもらいました。

また会員11名は非定常時作業として、須賀河内川の芦刈りと市道と水路間の草刈を行いました。

—7月21日（木）宇部市市民環境課・山口県健康福祉センター・ビオトープをつくる会と会合、今井会長参加

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎行事

—7月23日（土）フジときららネット子どもエコクラブ 松本・西原・管・前田参加

—7月27日（水）中国電力（株）ボランティア活動 案内者 渡辺正・原田マ参加

—8月05日（金）ビオトープ土地購入資金市長へ贈呈式 今井会長・原田副会長参加

—8月06日（土）親子自然観察会（川の生き物）関根会員リーダー他担当会員

—8月07日（日）厚東中学校生徒会 野球部4名。バレー部1名ボランティア活動で
当会の活動に参加 指導者数名募集中

—8月20日（土）維持活動（草刈・エコアップ）

3. 来訪者の声（ 東屋のノートより一部抜粋 ）

ネイチャーゲームの会よりビオトープ整備の謝辞が記入されていました。

4. 会員の声 「ガマガエル」 （ 原田満洲夫 記 ）

春に見つけたビオトープに行く旧道横のため池にガマガエルの産卵が大量に見つかった。

西原会員にも一緒に確認してもらいガマガエルの卵で、HPにも写真を載せましたが、10mmφの約長さ5～6mの中に無数の黒い卵が見え異様さも感じました。その後の観察をしないままでしたが、最近家の近辺でそのふ化した1cmくらいの子ガエルが何匹となく道を横断している。まるで海で孵ったウミガメの子のように跳ねては止まり、飛んでは構えて自分の生活に向かって行っています。このうちの何匹が親ガマガエルになるのだろうか？

話はその親である「ガマガエル」が、今年も我が家の火事から家を守ってくれるのであろうか帰ってきたHPの表題ページの写真がそうである。ところがである、昨晚我が家の愛犬ハルがこれを見つけ唸り声をあげていたのである。早速カエルは山に帰したものの1時間半位経ったとき愛犬のハルが何とも言えないうめき声を出し始めたのである。そばには先程山に帰したガマガエルが負傷し息絶え絶えであった。おそらく再び舞い戻ったガマガエルにかみついたのであろうそこはガマカエルが外敵から身を守る毒を持って防御したものである。

ガマガエルは姿が見えず大丈夫だろうか？愛犬のハルは翌朝も食事がのどを通らなかったのである。

（西原 注）ニホンヒキガエル（ガマガエル）は外敵に掴まれる等の刺激を受けると、耳腺から乳白色の毒物を分泌する。ヤマカガシは本種の毒に耐性があるようで好んで捕食する。またヤマカガシの頸部から分泌される毒は、本種の毒を貯蓄し利用していることが近年の研究により明らかになった。（ウィキペディアより抜粋）

5. 親子自然観察会「田んぼの生き物」

（7月16日、子供15名、保護者6名、会員5名）（西原 記）

それぞれの子供たちが、網とバケツを持って親と共に生き物（特に魚と水生昆虫）を捕まえるために、ビオトープの田んぼや池や湿地帯を駆け巡った。何を捕まえたのか、大きな歓声も聞こえてくる。ビオトープ下流の川には何人かの子供たちが川に入り、腰まで水に浸かりながら、一所懸命に網を水に入れて探していた。

今日、確認出来た生き物は、オイカワ、ムギツク、オヤニラミ、ドンコ、メダカ、スジエビ、ヤゴ（オニヤンマ、コスモスヤンマ、タイリクアカネ）、コオイムシ、タイコウチ、マツモムシ、ガムシ、オタマジャクシ（ウシガエル、ヌマガエル）

観察が終り、生き物を元の場所に返した後で、田んぼに入ってもらい、除草機を使って除草してもらった。初めての経験者が多く、珍しいのか皆一所懸命に挑戦していた。

天気にも恵まれ、親子にとって楽しい夏休み前の一日になったと思います。



田んぼの生き物観察



田んぼの除草

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(38) キイトンボ (イトトンボ科・キイトンボ属) *Ceriagrion melanurum*

休耕田の湿地などでたくさん見られましたが、近頃はなかなか姿を見ることができなくなっていました。クロイトンボやアオモンイトンボなどに比べやや太く、中型のイトトンボです。オスは胸が黄緑で腹が鮮やかな黄色をしており、逆光で見ると蛍光色に輝きます。メスは全体が黄緑色をしており、オスとの見分けができます。オスの鮮やかな黄色は良く目立ち、草むらや池の上でも見つけることは簡単です。

平地や丘陵地などの植生豊かな池沼や湿地、水田、溝などに生息しますが、尾瀬ヶ原や志賀高原など高地の湿原にも見られるようです、しかし北海道からは記録がありません。

5月中旬頃より出現し9月頃まで見られますが、今年は春が寒かったため、6月頃にずれ込む恐れがあります。ビオトープでも多く見られますので、これからが楽しみです。



連結産卵するペア



交尾するペア 上:♂ 下:♀

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

活動日の変更等に注意をお願いします。

8月6日（土）は親子自然観察会で8月20日第三土曜日は維持管理活動日となります。

8. 編集後記

夏の到来です。今年は、少し変わった夏になりそうです。入梅も梅雨明けも、異常に早い年でした。今、日本近海をうろうろしている台風六号の進路は、私の記憶にないコースとなっています。これらは、太平洋高気圧の張り出し具合のせいでしょう。これに関係有るのかは分かりませんが、植物の生育状況も例年と違うように感じています。

水田に、雑草がありません。これまでだと、田植え後一ヶ月もすれば、コナギが目立ち始めるのですが、今年は見受けられません。なぜなのでしょう？その代わり、湿地帯では、去年以上にコナギが繁殖しています。去年油断して、除去しなかったのが原因かもしれません。これを引き抜かなければ、まずいことになります。

ミズキンバイの開花時期も、去年より早いように感じます。去年は、七月末～八月に開花したように記憶していますが、今年は今月の初めから見られます。開花時期の早いのは良いのですが、葉に虫食い？が見られます。これも去年は目立たなかった現象です。花が咲いているので来年も大丈夫だと思いますが、原因がわからないと少し不安になります。

十年以上、ビオトープを見ていますが、本気に観察するようになったのは、ここ数年のことです。何十年も観察し、動植物に関する知識があれば、毎年の変化を楽しむ余裕が出来るのでしょうか。水不足、日照不足（この二つは相反することなのですが）、有害物質の流入が無いことを祈るばかりです。

（ 前田 歳朗 記 ）

ビオトープも新しい形で再出発する事が出来ました。そして Facebook に里山ビオトープ二俣瀬が開設されました。参加を勧められ恐る恐るのぞき、手順につまずき教わりながらやっと顔を出す事ができました。余りパソコンを開かない私はこれからどのように参加していけばよいか不安です。この会に参加して編集後記をかくようになった時すぐにはパソコンに手が届かず、電話でメールで四苦八苦して送った事を思い出します。それから今だ使いこなせていないパソコン。よく耳にするツイッターとか Facebook 等、私とは無縁のものだと思っていました。今それに関わるようになるとは。いつも遅ればせながらヨタヨタ頭をひねりながら楽しみながら参加できたらいいなと思っています。

（ 松本 フデ子 記 ）